

修士論文（要旨）

2022年1月

日本語学習における学習動機づけと第二言語不安との関係に関する研究  
－中国で日本語を学ぶ高校3年生と大学3年生を対象として－

指導 齋藤 伸子 教授

言語教育研究科

日本語教育専攻

220J3008

郭 延姿

Master's Thesis (Abstract)  
January 2022

The Relationship between Motivation and Second Language Anxiety in Japanese Language Learning:  
A Case Study of Third-Year High School Students and Third-Year University Students Studying  
Japanese in China

GUO YANZI  
220J3008  
Master's Program in Japanese Language Education  
Graduate School of Language Education  
J. F. Oberlin University  
Thesis Supervisor: Nobuko Saito

## 目次

第1章 序章.....	1
1.1 研究背景.....	1
1.2 研究目的.....	2
第2章 先行研究.....	3
2.1 動機づけの研究動向.....	3
2.1.1 第二言語教育における動機づけ.....	3
2.1.2 日本語学習における動機づけ.....	3
2.1.3 動機づけの分類.....	4
2.1.4 動機づけの測定.....	5
2.2 第二言語不安の研究動向.....	5
2.2.1 第二言語における不安.....	5
2.2.2 日本語学習における不安.....	6
2.2.3 不安の分類.....	7
2.2.4 不安の測定.....	7
2.3 動機づけと第二言語不安の関連性について.....	8
2.4 本稿の立場.....	8
第3章 日本語学習者の動機づけと不安についての調査.....	9
3.1 調査の概要.....	9
3.1.1 調査の目的.....	9
3.1.2 調査の対象.....	9
3.1.3 調査の方法.....	10
3.1.3.1 質問紙の作成.....	10
3.1.3.2 アンケート質問用紙の妥当性と信頼性.....	11
3.2 日本語学習者の動機づけと不安の調査結果と考察.....	13
3.2.1 動機づけの記述統計の分析と考察.....	13
3.2.2 不安の記述統計分析と考察.....	16
3.3 日本語学習者の動機づけと不安の因子分析.....	18
3.3.1 動機づけの因子分析.....	18
3.3.2 不安の因子分析.....	19
3.4 まとめ.....	21
第4章 動機づけと不安との関係.....	22
4.1 動機づけと不安の相関関係.....	22
4.2 まとめ.....	24
第5章 日本語への建議.....	25
5.1 授業について.....	25
5.2 授業以外について.....	26
第6章 おわりに.....	27

参考文献

別紙

20 世紀 80 年代以来、科学技術、経済、文化など中国と日本の関係は非常に深まってきた。日本語ができる人材もそれに相応して需要が高まった。日本語の学習者は年々増加しつつある。速い変化に富む世界に応じ、教育に対する要求も変わりつつある。この現状によって、中国人留学生の日本語学習はかなり重要である。日本語学習に影響を与える要因は様々であるが、多くの先行研究により、第二言語習得における、学習者の情意要因を中心としての研究は重要な地位を占めている。英語学習の動機づけと不安についての研究がよく見られるが、日本語学習の動機づけと不安に関する研究は少ない。本研究では、中国人日本語を学習する異なる段階の学習者の動機づけと第二言語不安に焦点を当て、彼らの実況に着目して実証的な調査を行う。具体的には、

- ①日本語学習者の動機づけと第二言語不安の実態を調査する。
- ②日本語学習者の動機づけと第二言語不安の構成する因子が明らかにする。
- ③日本語学習者の動機づけと第二言語不安との間の相関関係はどうであるかを分析する。

調査では、中国の A 公立高校において日本語を習っている高校三年生 55 名（男 24 名 女 29 名）と B 公立大学の外国語学群日本語専攻の三年生 22 名（男 7 名 女 15 名）を対象としてアンケート調査を実施した。まず、動機づけと不安のデータを計算して、平均値の上位五番名を取り上げて、結果を分析した。次に、データを導入して、SPSS ソフトウェアを利用し、因子分析を行った。最後に、因子分析の調査結果を踏まえ、SPSS ソフトウェアを利用して、ピアソンの積率相関係数の検定を行った。

分析の結果から以下のことが明らかになった。

第一に、動機づけのデータによると、高校生も大学生も日本へ留学したくて、異文化を了解したいという動機づけが強いことを示している。日本語の知識を学ぶよりも、視野を広げ、自分の能力を向上させたいと思っている。異なる点として、日本の映画、ドラマは若者の間にとっても人気があって、高校生は文化的な意識が強いことを示している。大学生は「受験教育」に影響されて、授業試験や資格受験のほうがもっと重視されている。

不安のデータによると、高校生も大学生も授業における教師からの質問することによって不安状態に陥ってしまうことが読み取れる。次には、学習者は教師やクラスメイトのまえて誤りを犯すことを恐れると、とても緊張して知っているものが思い出せない状態がよくある。高校生も大学生も「受験教育」に影響されて、試験を重視している。特に高校生、中国の両親は大学入試を重視しているので、高校生は大学入試に対するプレッシャーが大きい。

第二に、動機づけの因子分析によって、「自身を高める型動機づけ」、「学業と仕事型動機づけ」、「文化型動機づけ」という 3 つの因子を抽出した。因子構成は高校生と大学生の日本語学習者と同じであるが、それぞれの占める割合が違っている。高校生の場合は「自身を高める型動機づけ」の割合が一番大きい、大学生のほうが「文化型動機づけ」の割合が一番大きい。

学習者の不安の因子分析によって、高校生の場合は、「テストによる不安」、「評価に対する不安」、「コミュニケーション不安」という 3 つの因子を抽出した。大学生は、「教師の存在に伴う言語学習に関わる不安」、「テストによる不安」、「自尊心を脅かす、間違えることに対する不安」という 3 つの因子を抽出した。

第三に、高校生の「自身を高める型動機づけ」と「テストによる不安」は中等的な負の

相関関係があり、「学業と仕事型動機づけ」と「コミュニケーションによる不安」は弱い負の相関関係をはっきり示されている。大学生の場合、「自身を高める型動機づけ」と「テストによる不安」は中等的な負の相関関係があり、「文化型動機づけ」と「テストによる不安」の間に弱い負の相関関係がある。

本研究の限界と今後の課題を提示しておく。今回の調査は対象として学習者が二つの学校に限って、日本語教育に対して、不十分かもしれないだけでなく、SPSS 統計方法によって個々の学習者の具体的な状況は明確ではないという欠点もある。また学習者の成績、学習方法との関係を考慮していないので、どのような学習ストラテジーを使うか、学習の動機づけを高め、不安を軽減し、習得効果を上げることができるか及び異なる動機づけで学習ストラテジーの選択は違いがあるのかを具体的に検討することが今後の課題である。

## 参考文献（和文）

- 浅野弘明（2006）「学生の学習不安に関する多角的検証—情報科学と英語での不安調査結果」『京都府立医科大学看護学科紀要』15, 29-33
- 臼杵美由紀（2005）「上級中国人学習者の日本語学習に対する意識と成功への鍵: インタビュー調査からの考察」
- 石井秀幸（1993）「日本語学習者の学習意欲を構成する因子の分析」『平成7年日本語教育学会春季大会予稿集』1-6
- 磯田貴道（2007）「英語でのスピーキングに対する抵抗感の変化」『広島外国語教育研究』10, 47-56.
- 池田伸子（1997）「外国語学習不安と成人学習者の日本語習得」『留学生教育』
- 小河原義朗（1999）「外国人日本語学習者の日本語発音不安」『世界の日本語教育. 日本語教育論集』11, 39-53
- 郭俊海（2001）「シンガポール華人大学生の日本語学習の動機づけについて」『日本語教育』110, 130-139
- 北條礼子（1992）「外国語（英語）学習に対する学生の不安に関する研究」1
- 菅原健介（1986）「賞賛されたい欲求と拒否されたくない欲求--公的自意識の強い人に見られる2つの欲求について」『心理學研究』57, 134-140
- 倉八順子（1992）「日本語学習者の動機に関する調査—動機と文化的背景の関連—」『日本語教育』77, 129-141
- 倉八順子（1993）「第二言語習得における個人差」『教育心理学研究』42-2, 227-239
- 倉八順子（1995）「プロジェクトワークが学習成果と学習意欲に及ぼす効果」『日本教育心理学学会総会発表論文集』37, 100
- 小柳かおる（2005）「言語処理の認知メカニズムと第二言語習得: 記憶のシステムから見た手続き的知識の習得過程」
- 蔡愛芬、蔡愛玲（2013）「台湾人大学生の日本語学習の不安—総合大学と技術大学の比較を例として—」『徳明学報』129-152
- 品川直美（2001）「日本語教育におけるゲームに対する教師の意識と使用実態」『日本語教育』110, 101-109
- 成田高宏（1998）「日本語学習動機と成績との関係-タイの大学生の場合」『世界の日本語教育. 日本語教育論集』8, 1-11
- 西谷まり（2009）「動機づけ・外国語不安の捉え方と学習方略: ベトナムと中国の学習者の比較」『一橋大学留学生センター紀要』12, 15-25
- 西谷まり、松田稔樹（2003）「ベトナム人日本語学習者の外国語不安」『一橋大学留学生センター紀要』6, 77-89
- 西谷まり、松田稔樹（2006）「日本語学習者の言語不安軽減策としてのディベート活動」『留学生教育』9, 7-18
- 縫部義憲、狩野不二夫、伊藤克浩（1995）「大学生の日本語学習動機に関する国際調査—ニュージーランドの場合—」『日本語教育』86, 162-172
- 八島智子（2003）『第二言語コミュニケーションと情意要因: 「言語使用不安」と「積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度」についての考察』
- 八島智子（2004）「外国語コミュニケーションの情意と動機: 研究と教育の視点」関西大学出版部
- 文野峯子（1999）「学習過程における動機づけの縦断的研究: インタビュー資料の複眼的解釈

- から明らかになるもの」『人間と環境: 人間環境学研究所研究報告: journal of Institute for Human and Environmental Studies』3, 35-45
- 文部省 (1999) 『高等学校学習指導要領解説 — 外国語 編英語編』東京: 開隆堂出版
- 堀越和男 (2006) 「台湾の大学の夜間コースにおける日本語学習動機 — 日本語を専攻する学習者を対象に —」『國文学踏査』18
- 元田静 (1998) 「第二言語不安尺度の史的発展と課題」『教育学研究紀要』44-2, 432-437
- 元田静 (1999) 「初級日本語学習者の第二言語不安についての基礎的調査」『日本教科教育学会誌』21-4, 45-52
- 元田静 (2000) 「日本語不安尺度の作成とその検討: 目標言語使用環境における第二言語不安の測定」『教育心理学研究』48-4, 422-432
- 元田静 (2005) 「第二言語不安と動機づけとの関係: 日本語学習者を対象として」『日本教科教育学会誌』28-3, 73-82

### 参考文献 (英文)

- Aida Y (1994) 「Examination of Horwitz, Horwitz, and Cope's construct of foreign language anxiety: The case of students of Japanese」『The Modern Language Journal』78(2), 155-168
- Child D (1981) 「Psychology and the Teacher」
- Clément R, Gardner R C (1977) 「Smythe P C. Motivational variables in second language acquisition: A study of Francophones learning English」『Canadian Journal of Behavioural Science/Revue canadienne des sciences du comportement』9(2), 123
- Crookes G, Schmidt RW (1991) 「Motivation: Reopening the research agenda」『Language learning』41(4), 469-512
- Dörnyei Z, Clément R (2001) 「Motivational characteristics of learning different target languages: Results of a nationwide survey」『Motivation and second language acquisition』23, 399-432
- Ely C M (1986) 「Language learning motivation: A descriptive and causal analysis」『The Modern Language Journal』70(1), 28-35
- Gardner RC, Lambert WE (1959) 「Motivational variables in second-language acquisition」『Canadian Journal of Psychology/Revue canadienne de psychologie』13(4), 266
- Gardner RC (1972) 「Attitudes, motivation, and personality as predictors of success in foreign language learning」『Language aptitude reconsidered』179-221
- Horwitz E K, Horwitz M B (1986) 「Cope J. Foreign language classroom anxiety」『The Modern language journal』70-2, 125-132
- Lazarus R S (1984) 「Folkman S. Stress」『Appraisal and Coping, New York』
- MacIntyre P D, Gardner R C (1989) 「Anxiety and Second - Language Learning: Toward a Theoretical Clarification\*」『Language learning』39(2), 251-275
- Samimy K K (1992) 「Tabuse M. Affective Variables and a Less Commonly Taught Language: A Study in Beginning Japanese Classes\*」『Language learning』42(3), 377-398
- Scovel T (1978) 「The effect of affect on foreign language learning: A review of the anxiety research」『Language learning』28(1), 129-142
- Stevick EW (1982) 「Teaching and learning languages」『Cambridge: Cambridge University Press』
- Yerkes R M (1908) 「Dodson J D. The relation of strength of stimulus to rapidity of habit - formation」『Journal of comparative neurology and psychology』18(5), 459-482.
- Zimnyaya IA (1999) 『Psychological aspects of teaching speaking in a foreign language』

### 参考文献（中文）

『心理学大词典』（1989）北京师范大学出版社

（訳）『心理学大词典』（1989）北京師範大学出版社

石华玲（2006）「非日语专业本科生日语学习焦虑调查及其对日语教学的启发」『当代经理』10, 123.

（訳）石華玲（2006）「日本語専門の非専攻生として日本語学習の焦慮調査及び日本語教育に対する啓発」『当代經理人』10, 123

赵冬茜、谢燕（2013）「日语学习者学习动机与焦虑的相关性研究——兼论实施合作学习的必要性」『天津外国语大学学报』05

（訳）趙冬茜、謝燕（2013）「日本語学習者の学習動機と焦慮の相關研究—連携学習の必要性を兼ね備える」『天津外國語大學學報』05

杨豪杰（2012）「日语学习动机与学业成绩自我评价的关系」『宁波工程学院学报』24(4), 123-128.

（訳）楊豪傑（2012）「日本語學習の動機と學業成績の自己評価の關係」『寧波工程學院學報』24(4), 123-128.

王婉莹（2005）「大学非专业学生日语学习动机类型与动机强度的定量研究」『日语学习与研究』

（訳）王婉瑩（2005）「大學非專門學生の日本語學習動機の種類と動機の強さの定量的研究」『日本語學習と研究』